

政策の評価票

政策 ひとりひとりが個人として厚く尊重される

方向 日々のくらしのなかに人権を大切にし、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」を築いていくことにより、子どもも高齢者も、女性も男性も、障害のあるひともないひとも、また国籍や民族、生まれや生い立ちに関係なく、すべてのひとがいきいきとくらするまちをめざす。

評価 C 人権問題については、市民ひとりひとりの意識が重要であり、施策効果を客観的に把握できる指標は今のところ多くないが、虐待相談に対して速やかに対応した件数の割合等を取り上げたところ、良好である。市民満足度評価についてはCという結果が多いが、全体の中では比較的新しい人権問題であるHIV感染者やハンセン病の方などについての市民意識が高いとは必ずしも思われていないという結果となった。客観指標評価、市民満足度評価を総合的に勘案し、総合評価をCとする。

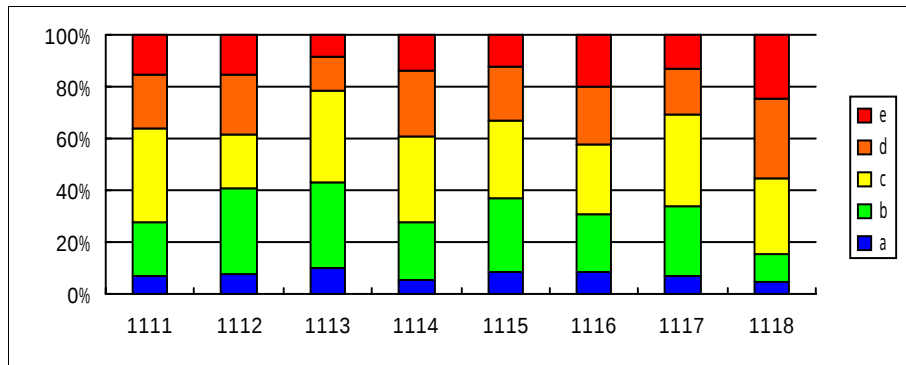
この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	日々のくらしのなかに人権を大切にし、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」の構築	評価:
1111 概要	人権尊重の考え方が日常生活に根付いた社会の構築をめざす。	C
施策名	男女がともに自立、参画、創造する男女共同参画社会の実現	評価:
1112 概要	女性と男性が、等しく個人として尊重され、性別によらない多様な生き方が保障されるとともに、あらゆる場において、ともに責任を担いつつ個性と能力を発揮することができる社会を実現する。	C
施策名	子どもの人権の尊重	評価:
1113 概要	児童虐待やいじめの防止等により子どもの権利を擁護し、子どもの人権を尊重する社会を構築するとともに、子どもたちの社会性や自主性、公共心を培う。	C
施策名	高齢者の人権の尊重	評価:
1114 概要	高齢者のプライバシーの侵害や虐待を防止し、高齢者の人権を尊重するとともに、高齢者が自立して社会参加できる場や機会に恵まれた社会をめざす。	B
施策名	障害のあるひとの人権の尊重	評価:
1115 概要	障害者に対する物理的、制度的、心理的障害を取り除き、障害のある人もない人も同じ生活を送ることができる社会を構築する。	C
施策名	特別施策としての同和対策事業の終結とその後の取組	評価:
1116 概要	特別施策としての同和対策事業を終結するとともに、残る諸課題については一般施策により取組を進め、様々な人が交流、共生する地域社会作りを進める。	C
施策名	多文化共生社会の実現	評価:
1117 概要	国籍、民族、文化等の違いによる精神的、制度的な壁を解消し、すべての市民が共に生きる多文化共生社会の実現を目指す。	C
施策名	現代社会における多様な人権問題への対応	評価:
1118 概要	多様な人権問題に関して正しい理解と認識を深め、市民ひとりひとりが身近な問題として考え対処する力を身につけ、現代社会における様々な人権問題に対応する。	D

○ 主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1112 (準)女性総合センター(ウィングス京都)来館者数(人)	352622	D'
1112 (準)審議会等における女性委員の登用率(%)	24.6	C'
1113 (準)虐待相談に対して速やかに対応(48時間以内)した件数の割合(%)	96	B'
1114 (準)シルバー人材センターの就業率(%)	62.8	B'
1114 介護サービス評価事業ユーザー評価結果(2点満点)	1.286	A
1115 (準)障害のあるひとの通所授産施設の施設数(人分)	1116	B'
1117 京都地域留学生住宅保証制度利用件数(件)	86	B
1117 審議会等への外国籍市民委員の参加数(人)	9	B

○ 市民満足度評価



1111 京都では普段の生活の中で「人権」を大切にすることが根付いていると思う。	C
1112 家庭、地域、職場など日常生活の中で女性と男性が平等になってきていると思う。	C
1113 子どもの人格が大切にされる社会になってきていると思う。	C
1114 高齢者が知識や経験等を生かして社会参加できる条件の整備が進んできていると思う。	C
1115 障害のある人が社会参加するための支援策が進んでいると思う。	C
1116 生まれや生い立ちに関係なく、すべての人がいきいきと暮らせる社会になってきていると思う。	C
1117 国籍、民族、文化等が違って理解し合える社会になってきていると思う。	C
1118 HIV感染者やハンセン病、刑を終えて出所した人、ホームレスなど、現代社会の様々な人権問題についての市民の意識は高いと思う。	D

政策 すべてのひとがいきいきと活動する

方向 子どもから高齢者まですべての市民がいきいきとくらせるまち、とくに高齢者や障害のあるひとが、住み慣れた地域社会のなかで、積極的に社会参加ができる場所や機会に恵まれ、多くのひとたちとふれあいながら社会の一員としての生きがいをもって活躍できるまちの実現をめざす。

評価 C 客観指標評価は良好で、特に老人福祉センターの利用者数は良い評価である。市民満足度評価は施策によって評価にばらつきがあり、住環境については良好な評価であるが、雇用関係の評価が低くなっている。このように、客観指標評価が良好である一方で、市民満足度評価との乖離が見られるため、Cという評価をする。

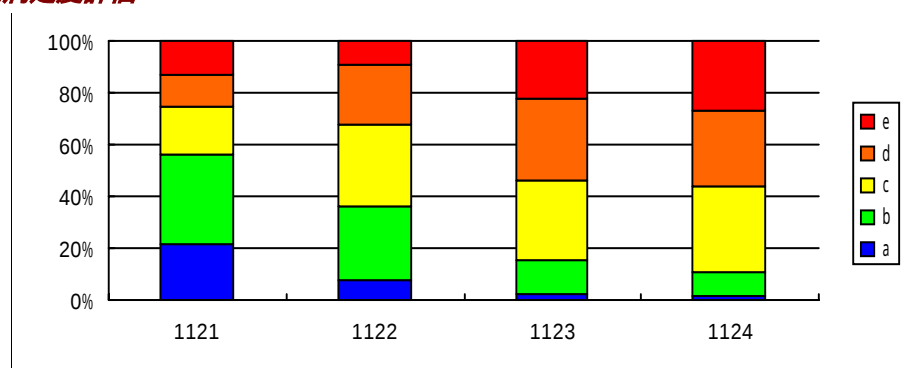
この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	だれもがずっとくらし続けたいすまい・まちづくり	評価:
1121	まちや住宅の安全性・地域性・歴史性等に配慮しながら、市民、事業者等との協働により、良質な住宅、住環境を整備し、多様な世代が共生するまちを実現する。	B
1122	福祉施設やスポーツ施設を整備し、ボランティア活動を支援するとともに、スポーツ活動の普及・ITなどの活用により、高齢者や障害のあるひとが積極的に社会参加できる社会を実現する。	B
1123	高齢者や障害のあるひとの能力向上や働く場の確保	評価:
1123	高齢者や障害のあるひとの能力向上を図り、就業の場の確保に努める。	C
1124	だれもがいきいきと働けるまちづくり	評価:
1124	勤労者のニーズに合わせた労働に関する情報の提供や学習機会の提供などを通じ、勤労者の福祉の向上を図り、だれもがいきいきと働けるよう支援を行う。	D

主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1122 (準)老人福祉センターの利用者数(人)	432681 A'
1123 (準)障害者雇用率(精神障害者を除く。)達成企業の割合(%)	46.9 B'
1123 シルバー人材センターの就業率(%)	62.8 B

市民満足度評価



1121 今住んでいる住宅や周りの環境には満足している。	B
1122 高齢者や障害のあるひとが社会参加できる機会が増えていると思う。	C
1123 高齢者や障害のあるひとの働く場が増えてきていると思う。	D
1124 労働についての情報が提供され、いきいきと働ける場を得ていると思う。	D

方向 子どもたちにとって、「家庭」が最も安心できる場所となり、温かく、また時には厳しく見守る「地域」の存在が必要である一方、集団のなかで子どもたちの可能性を開花させるなど「学校」の果たす役割もまた大きい。

113 家庭・地域・学校がそれぞれの役割に応じた教育責任を果たすとともに、三者が一体となった取組を進めるなかで、生命や人権、社会的規範等を尊重する豊かな心と社会性を身につけ、みずから考え、行動できる「生きる力」を備えた子どもたちを育(はぐく)む。

評価 B 客観指標評価は非常に良好である。交流事業の参加者数など各事業・制度の利用状況は極めて良好である。市民満足度評価もやや良好で、開かれた学校になってきており、学習環境にもゆとりがあると市民に受けとめられていると考えられる。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をBとする。

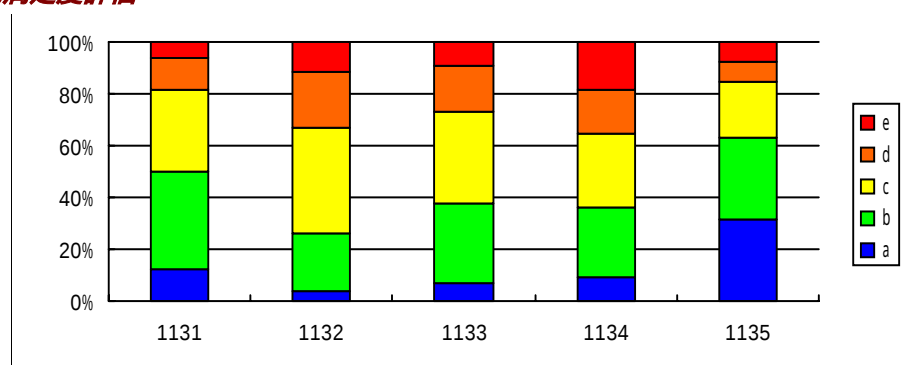
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	学校と家庭・地域の連携	評価:
1131 概要	学校・家庭・地域が相互に結ばれた関係をつくることで社会全体の教育力の向上を図り、地域の特性を踏まえた教育活動を推進する。	B
施策名	子どもたちの社会性を高める教育の推進	評価:
1132 概要	生命や人権、社会規範を尊重し、豊かな心を育み社会性を高める教育を推進し、主体的に行動できる子どもたちを育成する。	B
施策名	障害のある子どもの教育の推進	評価:
1133 概要	障害のある児童、生徒ひとりひとりの状態や発達段階に応じた指導の充実や教育内容の改善、地域の学校で学びたいとの保護者や子どもたちの要望にこたえる育成学級等の充実などきめ細かな養護育成教育を推進する。	B
施策名	教職員の能力・意識の向上	評価:
1134 概要	今日的な課題に対応し、保護者から信頼される教職員を養成するとともに、教職員の研修、研究を充実することにより能力、意識をさらに高める。	B
施策名	ゆとりと潤いのある学習環境づくり	評価:
1135 概要	学校施設の高度情報化、安全性の向上を進めるとともに、自然とのふれあいの機会を提供するなど、時代に対応した、ゆとりと潤いのある学習環境を創出する。	B

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1132 (準)学校支援ボランティアの派遣回数(回)	326	B'
1132 (準)スクールカウンセラー配置校数(校)	62	B'
1133 (準)交流事業「みんなで遊ぼう夏休みワイワイ広場」参加者数(人)	7136	A'
1134 (準)総合教育センター利用者数(人)	139767	B'

○市民満足度評価



- 1131 学校でも地域ぐるみの事業が行われ、開かれた学校になっていると思う。 B
- 1132 ボランティア活動などで、子供の社会性が高まっていると思う。 C
- 1133 障害のある子どもの状況に応じた指導・対応がなされ、養護育成教育が充実していると思う。 C
- 1134 何かと苦勞が多い中で、学校の先生はよく頑張っており、その働きぶりには満足である。 C
- 1135 自分たちの子どもの頃と比べると学校の施設・設備が充実しており、学習環境にゆとりを感じる。 B

方向 だれもが住み慣れた地域社会のなかで、そのひとらしい幸せな日常生活が健やかに送れるよう、保健・医療・福祉などくらしの基盤となるサービスや支援ネットワークが充実しているまちの実現をめざす。

評価 C 客観指標評価は良好である。特別養護老人ホームの利用者数は、サービス見込み量未満であったが、介護保険における居宅介護支援利用者数及びデイサービス利用者数などは見込み量以上であった。また、ファミリーサポート事業が発足し、見込みを上回る登録者があった。市民満足度評価はやや低い。特に地域で支えあう仕組みに対する評価が低い。これら客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をCとする。

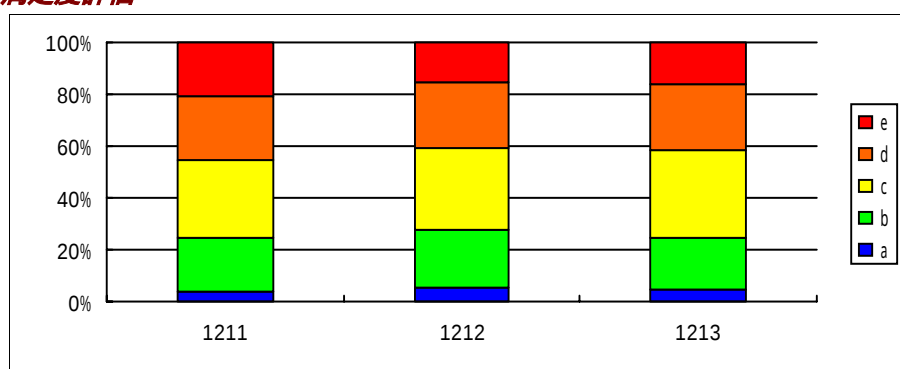
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	住み慣れた地域のなかで支え合い安心してくらすしくみづくり	評価:
1211	地域社会での相互支援のしくみを再構築するとともに、福祉ボランティアの活動を支援し、地域社会全体で支援の必要なひとの生活を支える社会を構築する。	C
概要		
施策名	高齢者とその家族の生活を支えるサービスの充実	評価:
1212	高齢者とその家族が安心して生活できるよう、多様なサービスを提供する。	B
概要		
施策名	障害のあるひととその家族を支えるサービスの充実	評価:
1213	障害のあるひととその家族が安心して生活できるよう、多様なサービスを提供する。	C
概要		

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1211 (準)ファミリーサポートの登録者数(人)	857	A'
1212 (準)健康すこやか学級の登録者数(人)	4687	B'
1212 (準)デイサービス利用者数(回/週)	14473	A'
1212 (準)介護保険における居宅介護支援利用者数(人)	27009	A'
1212 (準)特別養護老人ホームの利用者数(人)	3434	C'

○市民満足度評価



1211 万が一のことがあっても地域で支えあう仕組みがあり、安心である。	D
1212 高齢者とその家族を支えるサービスが充実していると思う。	C
1213 障害のあるひとやその家族を支えるサービスが充実していると思う。	C

方向 全国的に少子化が進むなか、子どもたちにとって最も大切な役割を担う家庭を基本として、それを補完するかたちで、社会全体で子育てを支援し、子どもを安心して産み育てられるしくみづくり、子どもたちがのびのびと健やかに成長できるしくみづくりを進める。
122 このことにより、親が子育てを楽しみ感じ、子どもたちがいきいきと活動できる場や機会に恵まれ、親と子の笑顔あふれる、子育てのしやすいまちをめざす。

評価 C 客観指標評価は指標ごとにばらつきがある。障害児保育実施児童数はほかの大都市と比較しても劣らず、地域子育て支援ステーションの相談件数は非常に増加している。市民満足度評価も施策により評価が分かれている。子どもを産み育てる際の安心感はあるものの、最近の子どもはいきいきとしているとの回答が少ない。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をCとする。

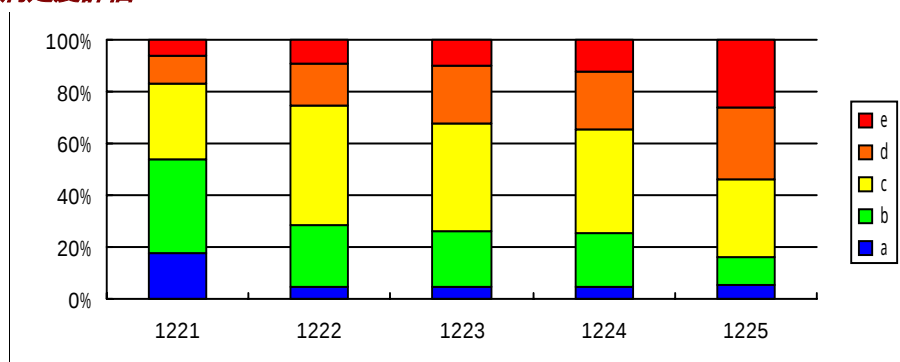
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	母と子のいのち・健康を守る保健医療の充実	評価:
1221 概要	妊産婦の心身の健康の保持、増進を図るとともに、子ども特有の事故、病気などへの対応など母親と子どもの総合的な保健医療を充実する。	C
施策名	安心して子育てができる保育サービス等の提供	評価:
1222 概要	様々な保育ニーズに対応した多様なサービスを提供し、安心して子育てのできる環境を構築する。	B
施策名	障害のある子どもや養護に欠ける子どもの子育て支援	評価:
1223 概要	障害のある子どもの保育環境の向上や学童クラブ事業における障害のある子どもの受け入れ態勢の充実を図るとともに、養護に欠ける子どもの子育て支援を充実する。	B
施策名	子育ての支援を求める家庭への応援体制の構築	評価:
1224 概要	子育てに関する情報提供や相談、また、地域全体の重層的な子育て支援のネットワークの充実など、子育て支援を求める家庭を社会全体で応援する体制を構築する。	C
施策名	子どもたちがのびのびと健やかに成長できるしくみづくり	評価:
1225 概要	児童館・学童クラブ事業を充実し、児童の健全育成や保護者同士の交流を図る。また、昼間留守家庭児童等に放課後の適切な遊びや生活の場を与え、健全育成を図る。	C

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1221 (準)1歳6ヶ月児健康診査受診率(%) *	91.2 B'
1221 周産期死亡率(出生数千対) *	5.9 C
1222 保育所の待機児童数(人)	436 B
1223 学童クラブ事業における障害のある児童の利用者数(人)	174 B
1223 障害児保育実施児童数(人)	637 A
1224 (準)地域子育て支援ステーションの相談件数(件) *	4835 A'
1225 児童館の利用児童数(人)	536138 B

○市民満足度評価



- 1221 子どもを産み育てるときに、気兼ねなく健康相談を受けたり、病院にも行け、安心である。 B
- 1222 子育て家庭のニーズに応じた保育サービスは、近隣市町村と比べて充実していると思う。 C
- 1223 障害のある子どもや養護に欠ける子どもに対する子育て支援が積極的に行われていると感じる。 C
- 1224 子育てに不安を感じたときに気軽に相談できるところがあり、心強い。 C
- 1225 子どもの居場所や遊び場所、様々な体験の機会が確保され、最近の子どもはいきいきとしていると思う。 D

方向 すべての市民が、その生涯を通して心身ともに健やかにくらすよう、市民ひとりひとりの心身の健康づくりへの意識を高めるとともに、総合的な保健予防対策や衛生的な生活環境づくりによって健康に生活できる環境を整備し、適切な保健・医療サービスが受けられるまちの実現をめざす。

また、生涯を通して、だれでも、いつでも、どこでもスポーツに親しむことができる豊かなくらしの実現に向け、市民やスポーツ振興団体等との連携の下、スポーツに親しむ機会と場の提供に努める。

評価 C 客観指標評価は概ね良好である。特に、がんによる死亡率、3歳児歯科健康診査における罹患者数は低下しており、市内の食中毒発生件数も減少している。またスポーツ施設の利用件数も増加しており、市民の健康づくりに役立っていると推測される。市民満足度評価については、全体的にはCが多いが、健康に対する意識は高い。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をCとする。

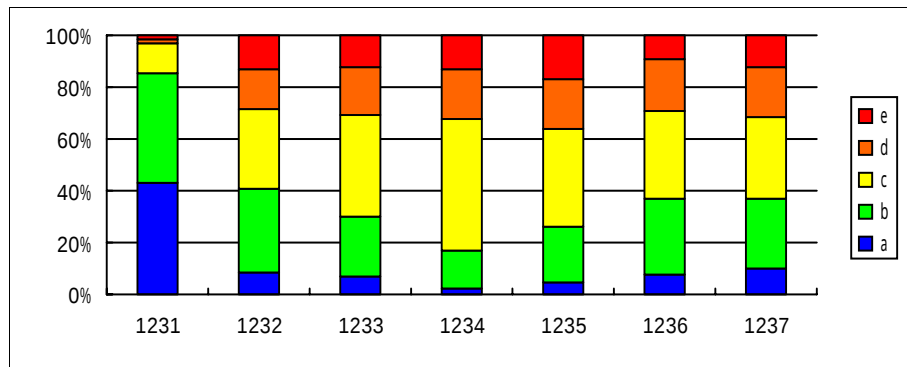
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	市民ひとりひとりの健康の増進	評価:
1231 概要	市民ひとりひとりの心身の健康づくりへの意識を高めるとともに、各世代に応じた健康教育や保健サービスなど、保健所を中心とした健康づくりを進める。	C
施策名	市民の健康をしっかりと守る取組の推進	評価:
1232 概要	毒物や食中毒など、市民の生命や健康を脅かす事態に対する危機管理体制の整備を進める。また、難病患者等に対する支援や結核をはじめとした感染症対策、歯科保健対策を推進する。	C
施策名	保健医療サービスを支える体制の整備	評価:
1233 概要	保健所や市立病院をはじめとする保健医療施設などハード機能強化を図るとともに、市民の健康を取り巻く状況の変化に的確に対応できる看護師の育成などソフト基盤の整備を行う。	C
施策名	精神保健・医療・福祉サービスを支える体制の整備	評価:
1234 概要	市民のこころの健康の保持増進を図るとともに、精神障害の予防や治療、精神保健福祉体制を整備する。	C
施策名	生活衛生の推進	評価:
1235 概要	食品衛生、居住衛生、動物愛護等市民に身近な生活衛生対策を推進する。	C
施策名	保健医療施策の計画的な推進	評価:
1236 概要	保健、医療、福祉の環境を取り巻く状況が大きく変化する中で、総合的、計画的に保健医療を推進し、市民の健康づくりを進める。	C
施策名	スポーツ活動の機会や施設に恵まれたまちづくり	評価:
1237 概要	生涯を通してスポーツに親しむことができる豊かな暮らしの実現に向け、市民やスポーツ振興団体等との連携の下、スポーツに親しむ機会と場の提供に努める。	B

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1231 (準)基本健康診査の受診率(%) *	34 B'
1231 生活習慣病による死亡率(脳血管疾患)(人口10万対) *	90.3 E
1231 生活習慣病による死亡率(心疾患)(人口10万対) *	120.2 C
1231 生活習慣病による死亡率(がん)(人口10万対) *	248.2 A
1232 (準)3歳児歯科健康診査における罹患者率(%) *	25.3 A'
1232 (準)難病対策支援サービス利用者数(人) *	568 C'
1235 市内の食中毒発生件数(件)	19 B
1237 スポーツ施設の利用件数(件)	9175 A

○ 市民満足度評価



- 1231 健康への意識は高まっていると思う。 A
- 1232 医薬品の副作用や食中毒, 感染症など健康に関する情報が手に入れやすい。 C
- 1233 保健所や市立病院は利用しやすく, そのサービスに満足である。 C
- 1234 精神に障害のある人への保健, 医療, 福祉サービスが充実していると思う。 C
- 1235 保健所などによる食品業者への監視や指導があるので, 安心して食品を購入し, 食べることができる。 C
- 1236 日常生活の中で健康に関する正しい情報が手に入り, 役に立つと思う。 C
- 1237 地域において, 気軽にスポーツに参加し, スポーツを楽しむ機会がある。 C

方向 「地球温暖化防止京都会議(COP3)」の開催都市として、市民、事業者、行政の連携の下、経済的手法の検討も含め、二酸化炭素(CO₂)排出量の削減や資源・エネルギーの有効利用など総合的な地球温暖化防止対策に積極的に取り組むとともに、ごみの発生抑制とリサイクル、廃棄物の適正処理を推進する。

さらに、豊かな自然環境との調和を図りつつ、市民の自主的な環境保全の取組を支援することで、ひとりひとりがくらしに節度をもち、環境への負担の少ない持続可能なまち「環境共生型都市・京都」を実現する。

評価 客観指標評価は良好である。二酸化炭素排出量は横ばいであるものの、環境基準達成率、ごみ処理量について特に良好である。市民満足度評価はすべてCという結果である。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をBとする。

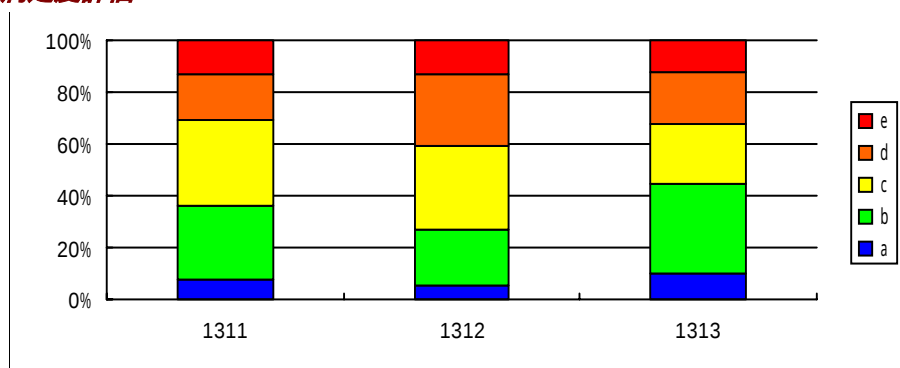
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	「京(みやこ)のアジェンダ21フォーラム」を核とした環境問題への取組	評価:
1311 概要	地球温暖化防止のための二酸化炭素排出量削減を柱として策定した行動計画「京のアジェンダ」を推進する「京のアジェンダ21フォーラム」を核として、市民・事業者・行政がパートナーシップの下に環境問題への取組を行う。	C
施策名	環境と共生するくらしの実現	評価:
1312 概要	生活環境の汚染防止や新エネルギーの利用など、良好な自然環境の保全に努めるとともに、環境問題に関する理解を深め、市民ひとりひとりがくらしに節度を持つ、環境と共生するくらしを実現する。	B
施策名	廃棄物を出さない循環型社会の構築	評価:
1313 概要	市民・事業者とともに、ごみの発生抑制とリサイクル、適正な処理等を進め、廃棄物を出さない循環型社会を構築する。	B

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1311	二酸化炭素排出量(万t)	767	C
1312	環境保全基準達成率(騒音)(%)	89.7	A
1312	環境保全基準達成率(大気)(%)	49.1	C
1312	(準)下水道高度処理対応率(%)	14.2	A'
1312	(準)公共下水道普及率(%)	99.2	B'
1312	環境保全基準達成率(水質)(%)	94.3	A
1313	ごみ処理量(t)	698149	A

○市民満足度評価



- 1311 省エネや省資源に取り組むお店や買物客、公共交通機関を利用する人が増えていると思う。 C
- 1312 「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれていると感じる。 C
- 1313 環境問題への意識が高まり、ごみの減量、分別収集や集団回収などに取り組む人が周りで増えていると思う。 C

方向 21世紀前半は近畿内陸の活断層が活動期にあるといわれるなか、木造建築物や袋路の多い京都のまちの特色に配慮するとともに、貴重な文化財を守るという歴史都市の課題を踏まえ、地震などの大規模災害や火災への備えを充実する。
 このため、都市の空間や建築物の防災機能を強化するなど、災害に強いまちづくりに取り組むとともに、ひとりひとりが災害から身を守る知恵や工夫を日々のくらしのなかに生かす災害に強いひとづくり・組織づくりを進める。

評価 客観指標評価については、人口1万人当たりの火災件数が、政令指定都市で最も少なく非常に良好である。近年顕著な災害が起こっていないなど危機意識の風化が懸念される状況の下、市民満足度評価は必ずしも良好ではないが、客観指標評価を重視してBとする。

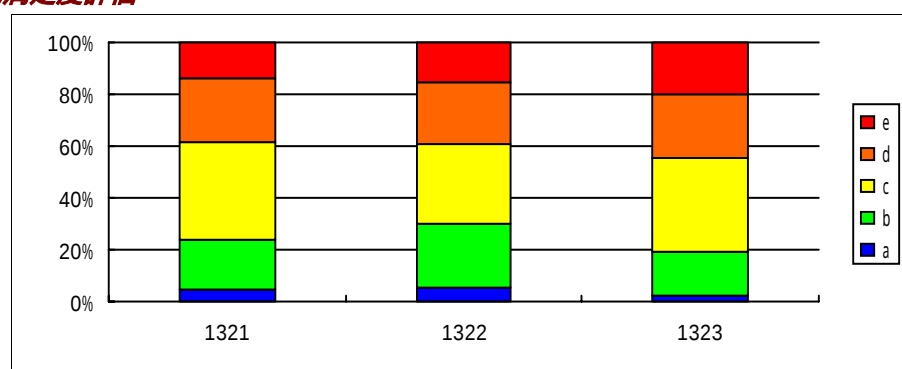
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	京都のまちの特色に配慮した災害に強いまちづくり	評価:
1321 概要	都市空間や建築物、上下水道施設の防災対策や治山、治水対策を推進するとともに、防災水利構想に基づく事業の推進により、災害に強いまちづくりに取り組む。	C
施策名	災害から身を守る知恵や力をつける災害に強いひとづくり	評価:
1322 概要	災害発生時に歴史的な町並みを守り、市民の安全を確保するため、市民防災センターでの体験研修や種々の防火防災指導を通じ、市民の応急手当能力の向上をはじめ市民ひとりひとりの防災意識や災害対応力の向上を図る。	B
施策名	市民のくらしと豊かな文化・歴史の蓄積を守る災害に強い組織づくり	評価:
1323 概要	消防・救急体制の充実や地域における防火・防災の中心となる消防団の充実を図る。また、自主防災組織等の活動や防災ネットワークの強化を図ることなどにより、地域ぐるみの防火・防災体制を確立する。	B

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1321 (準)緊急時における飲料水等の確保日数(日)	71 A'
1321 人口1万人当たりの火災件数(件)	2.3 B
1322 救命講習受講者数(人)	13035 A
1323 (準)文化財市民レスキュー体制確立数(件)	42 A'

○市民満足度評価



- 1321 建物の耐震対策や防火水槽の設置など、まち全体の防災機能が高まりつつあると思う。 C
- 1322 提供された防災情報、応急手当の講習会や防災訓練などに参加する機会を通じて、災害から身を守る知識が備わってきたと思う。 C
- 1323 地域の自主防災組織は、地震などの災害が発生したときに効果的な活動ができるようになってきたと思う。 D

政策 日常生活における身近な安全や安心を確保する

方向 日常生活における身近な安全や安心を確保するため、市民、事業者、警察その他関係機関と連携して、市民の自主的な防犯・事故防止活動の支援、犯罪や事故などを未然に防ぐまちづくりを進めるとともに、消費者被害を未然に防ぐための情報提供を行うなど、消費者が自立し安心してらせるまちづくりを進める。

評価 客観指標は交通事故死者件数が減少するなど、比較的良好である。生活安全などについてたずねた市民満足度評価はいずれもCが多い評価である。客観指標がいずれも準指標であることや安心の確保という政策目的から、市民満足度評価を重視して総合評価をCとする。

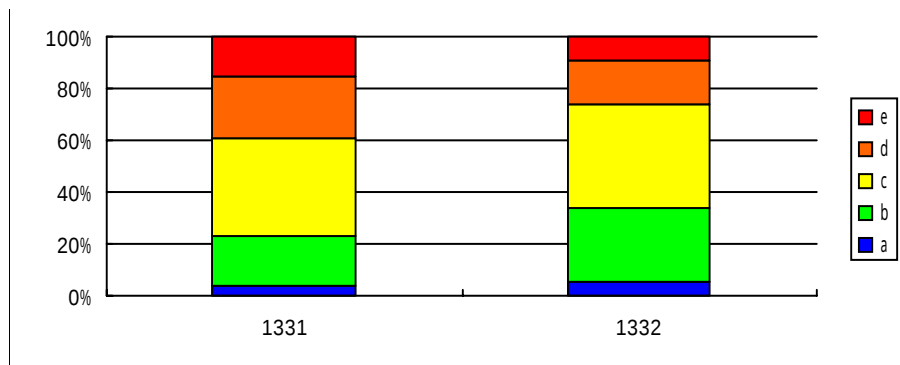
この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	犯罪や事故のない安全なまちづくり	評価:
1331 概要	京都市生活安全条例に基づき、市民、事業者、行政及び関係機関が連携し、誰もが安心してらせるまちづくりを推進する。	C
施策名	消費者が自立し安心してらせるまちづくり	評価:
1332 概要	消費者団体や事業者団体と連携し、消費者が自立し安心してらせるまちづくりを推進する。	B

主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1331 (準)刑法犯の犯罪認知件数(件)	40243	C'
1331 (準)交通事故死者件数(件)	58	B'
1332 (準)出前講座等消費者啓発事業への参加状況(人)	2808	A'

市民満足度評価



1331 自治会などによる生活安全の活動が展開され、安心して暮らせるまちであると思う。

C

1332 消費者被害に遭わないための知識が備わってきたと思う。

C

方向 歩いて楽しい「歩くまち・京都」の実現をめざす。「歩くまち・京都」とは、歴史文化資産や自然環境と調和した歩く魅力があるまち、だれもが歩きたくするような安全・快適な交通環境が整ったまち、生活目的が身近な地域で歩いて果たせるまち、また、来訪者にとっても歩くことによってその価値をより深く楽しむことができるまちである。

134

このようなまちをつくるため、美しい町並み景観の形成など歩くまちの魅力を高める取組を進めるとともに、自動車流入の抑制や安全な自転車利用の促進等、のびのびと歩けるための条件を整備し、環境への負担の少ないまちづくりをめざす。

評価
B

市民満足度評価は概ね良好で、歩道に関する評価は低い、公共交通の利用を促進する方向や、歩いて楽しいまちだと感じることにについて良い評価であることは重要である。客観指標評価は指標ごとにばらつきがある。公共交通の利用割合、都市型レンタサイクルの設置台数については良好であるが、電線類地中化計画の整備実施延長、道路規格改良済延長は伸びが低い。政策の方向性に市民の理解が得られていると考えられることから、総合評価をBとする。

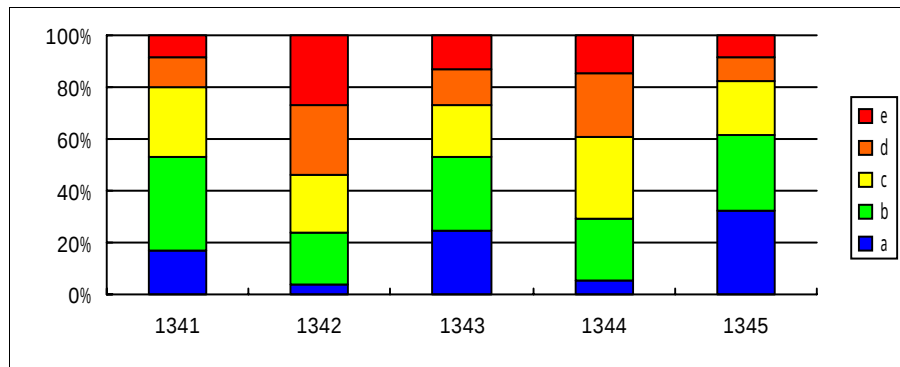
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	歩く魅力のあるまちづくり	評価:
1341 概要	まちの美化、自然・歴史的な景観の保全、市街地の町並み整備、道路のバリアフリー化に取り組み、安全快適で歩く魅力のあるまちづくりを推進する。	B
施策名	歩くまちの歩行空間の形成と自転車利用の促進	評価:
1342 概要	高齢者や車椅子利用者をはじめとして、だれもが安全で快適に利用できる歩行空間を整備する。また、自転車利用環境を整備し、自転車の利用を促進する。	C
施策名	歩くまちを支える公共交通の充実	評価:
1343 概要	歩くまちの実現のため、公共交通輸送サービス網を充実するとともに、公共交通のバリアフリー化などについても推進、支援する。	C
施策名	歩くまちにふさわしい道路網の整備	評価:
1344 概要	公共交通機関や自転車が利用しやすく、安全・快適な歩行空間を確保した、歩くまちにふさわしい道路網を整備する。	C
施策名	歩くまちをつくる新しい交通政策の推進	評価:
1345 概要	歩くまちの実現のため、地域の住民や事業、その他の関係機関が一体となって、自動車交通に過度に依存しない歩くまちにふさわしい交通体系の確立を目指す。	B

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1342	新電線類地中化計画の整備計画延長に対する整備実施延長(km)	2.62	C
1342	都市型レンタサイクルの設置台数(台)	610	B
1343	市域内の人の移動における市バス・地下鉄ネットワークの利用分担率(%)	25.4	C
1344	道路規格改良済延長(単年度延長)(m)*	6781	D
1345	(準)パーク＆ライド交通社会実験の利用者満足度(%)	95.4	A'
1345	(準)公共交通の利用割合の増加度(%)	86.5	B'

○ 市民満足度評価



1341 京都市は、まちが美しく、観光地や商店は賑わっており、歩いて楽しいまちだと感じる。 B

1342 歩道の電柱や段差がなくなり快適になった。 D

1343 市内の移動には市バスや地下鉄が便利である。 B

1344 安心して歩ける道が増えてきている。 C

1345 環境問題や道路事情のことを考えると、自家用車を控えてなるべくバスを使おうと思う。 B

方向 京都が魅力あふれる美しいまちであり続けるため、規制の強化のみによるのではなく、住民みずからが取り組む活動に対する支援を行うなど、まちの美化を進めるとともに、地域の個性や自然・歴史的な条件を十分に考慮して、景観や緑地の保全と向上に努める。

211 このようにして、自然・歴史的な風土と調和したまちを保全・再生するとともに、京都の華やきを後世に伝える新しい景観を創造するための取組を進める。

評価
B まち美化住民協定の締結数や構造別着工件数に占める木造建築物の割合等を客観指標として取り上げたところ、概ね良好な評価となった。市民満足度評価については、自然環境について特に良好であり、全体として良好と言える。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をBとする。

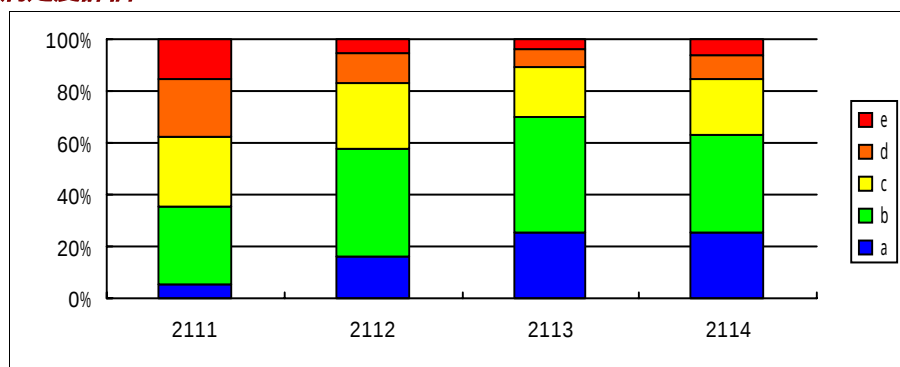
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	市民、事業者と一体となったまちの美化の推進	評価:
2111 概要	ひとりひとりがごみを捨てない、また、捨てさせないという市民意識を醸成し、監視・指導の強化や公園・河川等の美化活動を促進する等により、まちの美化の推進に取り組む「世界一美しいまち・京都」を実現する。	B
施策名	個性的で美しい景観の形成	評価:
2112 概要	自然・歴史的な景観の保全、市街地のきめ細かな景観づくりを推進し、個性的で美しい景観を形成する。	C
施策名	水と緑を生かしたまちづくり	評価:
2113 概要	自然や歴史環境を生かした公園や水辺環境の整備などを推進し、水と緑を生かしたまちづくりを進める。	B
施策名	木の文化が息づくまちづくり	評価:
2114 概要	町家や社寺などの伝統的な木造建築物や、漆器や木工品などの木の文化を守り育てるため、木造建築物の建設の誘導、技能の継承支援などを進める。	B

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2111	放置自転車等の台数(台)	9994	B
2111	まちの美化住民協定の締結数	167	B
2112	(準)歴史的意匠建造物件数(件)	107	C'
2113	市民一人当たりの公園面積(m ²)	4.51	C
2114	構造別着工件数に占める木造建築物の割合(%) *	40.69	B

○市民満足度評価



2111	散乱ごみが少なく、美しいまちだと思う。	C
2112	京都市のまちなみは個性的で美しいと思う。	B
2113	水と緑豊かな環境に恵まれていると思う。	A

2114 まちなかには文化を感じさせる木造建築が多く残っていて、なかなか良いと思う。

B

方向 芸術文化振興の拠点として設置した「京都芸術センター」を中心に、芸術文化の新たな担い手を育成し、市民文化の振興を図るとともに、多彩な芸術文化交流を推進するなど、文化の創造・発信に向けた総合的な取組を進める。
 さらに、京都のまちを構成する主要な要素である文化財の保護に努めるとともに、市民が文化・芸術の豊かさを享受することができるよう積極的な取組を進め、観光や産業分野との連携を一層強めることにより、国内外の文化交流の中心地である文化首都をめざす。

評価 客観指標評価については、文化施設の入場者数について低調であるが、観光客数については良好である。市民満足度評価については、概ね良好であり、文化・芸術の創造・発信の取組みや、文化資源を活かしたイベントについて尋ねたところ、特に良好な評価である。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をBとする。

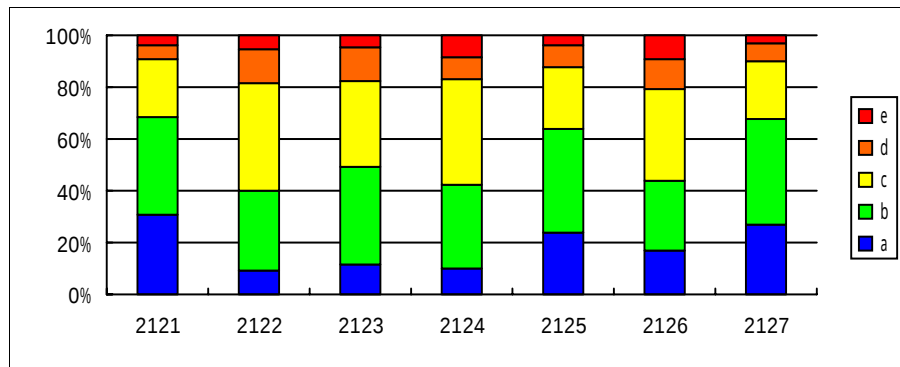
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	文化の創造・発信に向けた総合的な取組の推進	評価:
2121 概要	「京都芸術センター」を中心として、芸術活動の支援、情報発信、芸術家と市民との交流など、芸術文化を総合的に振興する。	A
施策名	市民文化の振興	評価:
2122 概要	市民の文化力の向上を図るとともに、市民文化活動の支援や情報提供を行うなど、市民が芸術文化を支え、実践し、楽しさを享受できる取組を進める。	C
施策名	多彩な芸術文化交流の推進	評価:
2123 概要	国内外の芸術家を受け入れ、その芸術活動を支援するとともに、様々な都市との芸術文化交流を行い、世界の芸術文化交流の拠点となることを目指す。	B
施策名	芸術文化の新たな担い手の育成	評価:
2124 概要	研究活動費の助成、発表の場の提供などを通じて芸術文化の新たな担い手を育成する。	C
施策名	豊かな文化資源を生かした芸術文化の振興	評価:
2125 概要	伝統芸術、映画、音楽など京都の豊かな文化資源を生かした芸術文化の振興を図る。	B
施策名	文化財保護の推進	評価:
2126 概要	未指定文化財を調査し、その結果に基づく文化財への指定及び登録を行うとともに、指定・登録文化財の保存、活用を行い、文化財保護の推進を図る。	B
施策名	文化と観光・産業の連携	評価:
2127 概要	文化学術施設や社寺、伝統的行事など、豊かな文化資源を生かし観光集客力の向上、産業振興を図る。	B

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2127 (準)文化施設の年間入場者数(人)	2788960	D'
2127 1年間に京都を訪れた観光客数(千人)	42174	A

○ 市民満足度評価



- 2121 文化・芸術の創造・発信の取組が充実しており、日本を代表する芸術文化の都であると思う。 A
- 2122 自ら文化活動を行う場があり、市民の文化活動が盛んに行われていると思う。 C
- 2123 京都では様々な国、ジャンルの芸術に触れ親しむことができると思う。 B
- 2124 活動の場に恵まれているので、京都が生み育てたアーティストは多いと思う。 C
- 2125 京都ならではの文化資源を生かした文化・芸術に接する機会に恵まれていると思う。 B
- 2126 文化財に親しむことができ、暮らしが豊かになったと感じる。 B
- 2127 二条城などの文化資源を活用したイベントが実施されていて、観光客に京都の魅力をアピールしていると思う。 A

方向 京都が培ってきた伝統や文化を生かしながら、世界との自由な交流により平和を希求しつつ、新たな文化を創造する文化首都であり続けるため、姉妹都市交流や留学生交流など市民ひとりひとりが主役として活躍する多彩な国際交流活動やそれを支えるまちづくりを進めるとともに、地球規模の問題や歴史都市としての共通の課題の解決のため、京都の特性を生かした国際協力を推進する。

また、近隣自治体などとの地域間交流を進めることにより、市域を越えた連携による都市活力の増進を図る。

評価 客観指標評価については、ばらつきある。国際交流イベント等への参加者数は減少したものの、京都市国際交流協会のホームページアクセス件数は大きく増加している。国際交流・国際協力について尋ねた市民満足度評価の結果は、概ね良好である。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をBとする。

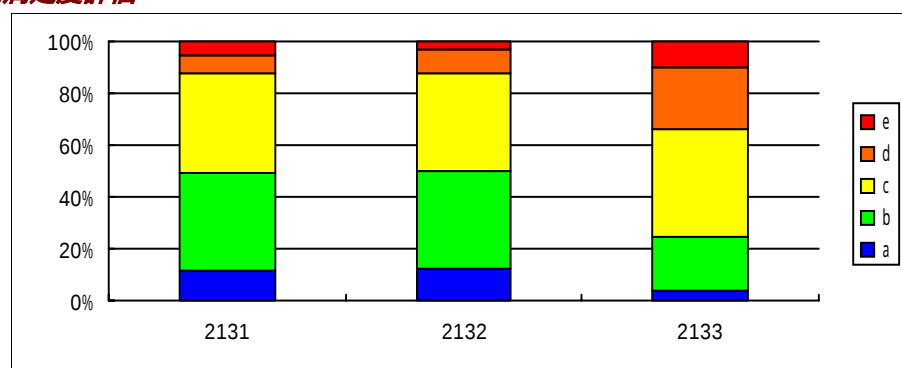
この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	多彩な国際交流の推進	評価:
2131 概要	姉妹都市交流や留学生交流など市民ひとりひとりが主役として活躍する多彩な国際交流活動やそれを支えるまちづくりを進める。	B
施策名	京都の特性を生かした国際協力の推進	評価:
2132 概要	地球規模の問題や歴史都市としての共通の課題の解決のため、京都の特性を生かした国際協力を促進する。	B
施策名	都市の活力を生む多様な交流の推進	評価:
2133 概要	近隣自治体などとの地域間交流を進めることにより、市域を越えた連携による都市活力の増進を図る。	C

主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2131	京都市国際交流会館来館者数(人)	197881	C
2131	(準)(財)京都市国際交流協会ホームページアクセス件数(件)	133411	A'
2131	(財)京都市国際交流協会のイベント・講座への参加者数(人)	11088	D
2133	京都都市圏域人口(人)	3414592	B

市民満足度評価



- 2131 京都は留学生を大切にしている、市民レベルでも国際交流が行われていると思う。 B
- 2132 歴史、文化、環境問題など京都らしい国際協力が充実していると思う。 B
- 2133 関西圏での連携や周りの都市との交流が行われ、京都のまちに活気が生まれていると思う。 C

方向 京都は神社仏閣、大学・研究機関、匠（たくみ）の技や伝統文化・伝統芸能など豊富な学習資源に恵まれており、この特性を生かし、市民はもとより国内外の生涯学習ニーズにもこたえる創造的な学びの機会・場・しくみづくりを進める。

214 また、地蔵盆をはじめ京都ならではの行催事の活用などにより、地域のなかで世代を越えてともに楽しみながら学び、学習の成果を分かち合い、学習の輪を広げる。

評価 客観指標については、良好である。特に、博物館ふれあいボランティア延べ活動者数の増加が著しい。市民満足度評価については、学習環境などについて尋ねているが、比較的良好である。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をBとする。

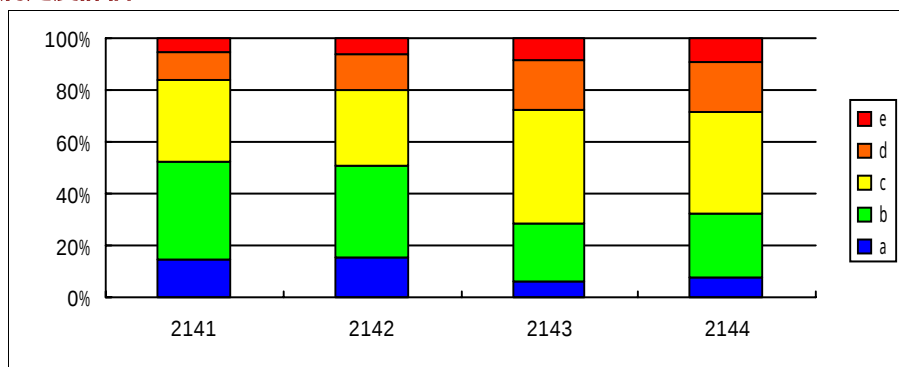
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	多彩な学習機会の確保・提供	評価:
2141 概要	神社仏閣、大学・研究機関、伝統文化・伝統美術など恵まれた生涯学習資源を活用した京都ならではの学習機会を確保・提供するとともに、人権文化の構築、環境の保全など、様々な社会的課題についての学習機会を確保・提供する。	B
施策名	時代に応じた学習関連施設の充実	評価:
2142 概要	図書の検索機能の向上をはじめ、市民に役立つ使いやすい図書館機能の充実を図るとともに、生涯学習関連施設において時代の進展に応じた整備を行う。	B
施策名	新たな学習支援のしくみづくり	評価:
2143 概要	民間事業者等の豊富な学習資源や学習プログラムを段階的、系統的に活用できるようにするなど、市民の自主的な学習活動を支援する新たなしくみづくりを進める。また、京都の豊富な学習資源を生かし、市民はもとより国内外の生涯学習ニーズにもこたえる創造的な学びの機会・場・しくみづくりを進める。	B
施策名	世代を越えてともに学ぶ地域づくり	評価:
2144 概要	地域での学びを支える人材を育成するとともに、地域の学びの場・機会を充実することにより、地域のなかで世代を越えてともに楽しみながら学び、学習の成果を分かち合い、学習の輪を広げる。	B

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2141 (準)学校歴史博物館入館者数(人)	11370 A'
2141 (準)京都アスニー・山科アスニー施設入館者数(人)	784458 B'
2142 (準)図書貸出冊数(冊)	5477908 B'
2143 (準)博物館ふれあいボランティア延べ活動者数(人)	772 A'
2144 (準)コミュニティプラザ施設利用者数(人)	111872 B'

○市民満足度評価



- 2141 伝統文化や環境学習など京都ならではの色々な学習機会に恵まれていると思う。 B
- 2142 学ぼうという気があればいつでも学べる環境が整っていて、多彩な学習が楽しめる。 B
- 2143 自分に合った学習ができるようになっており、学ぶ意欲がわく。 C
- 2144 学校や地域での取組によって、幅広い世代が学べる機会が充実していると思う。 C

政策 産業連関都市として独自の産業システムをもつ

方向 伝統産業から先端技術産業まで、農林業から観光産業、サービス産業まで、高品質・長寿命で付加価値の高いものづくりのわざや高度な情報技術、さらには洗練されたデザインや斬新な企画力をもつ京都独自の産業システムを構築し、さまざまな産業が互いの技術にも企業文化にも厚い信頼を置き、相互にきめ細かく支え合う「産業連関都市」をめざす。

また、都市づくりの目標と整合した商業集積の形成を実現し、地域に密着した商業の振興を図るとともに、市民の健康と豊かな食生活を維持するため、流通体制の整備を進める。

評価 客観指標については、ばらつきがある。製造品出荷額等については悪化しているが、本市の経済成長率(市内総生産)は国の経済成長率を上回っており良好である。市民満足度評価については、概ね良好である。特に、市内の買い物環境や京の旬野菜についての問いに対して良好な回答を得られている。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をBとする。

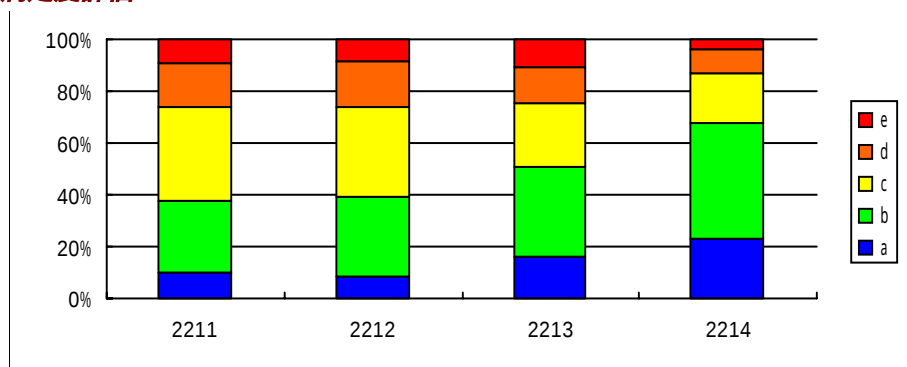
この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	京都独自の新たな産業連関都市の構築	評価:
2211 概要	多様な分野の産業がお互いの企業文化に厚い信頼を置き、相互にきめ細かく支え合う京都独自の新たな産業連関都市を構築する。	B
施策名	活力ある産業活動への支援	評価:
2212 概要	「ものづくり都市・京都」の活性化に向けて、中小企業への支援を行うほか、伝統産業の再生と新たな京都ブランドの創造・展開に努める。	C
施策名	地域に密着した商業の振興	評価:
2213 概要	都市づくりの目標と整合した商業集積の形成を実現し、地域特性に応じた商業の振興を図る。	C
施策名	市民に身近で環境にやさしい都市農林業の育成	評価:
2214 概要	持続的な都市農林業を展開し、市民生活に密着した農林産物の流通体制の整備や農林業を通じた市民交流活動の充実等により、市民に身近で環境に優しい都市農林業の育成を図る。	B

主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2211 (準)ベンチャー企業目利き委員会Aランク認定企業数(社)	32	C'
2211 市内総生産(億円) *	59927	B
2212 製造品出荷額等(百万円) *	2370266	E
2213 商業(卸売・小売業)年間商品販売額(億円)	55771	C
2214 (準)「京の旬野菜」生産割合(%) *	25.8	A'

市民満足度評価



2211 京都の特色を生かした産業活動が活発に行われていると思う。

C

2212 産業の中でも、ものづくりが意欲的に取り組まれていると思う。

C

2213 市内の買物環境に満足している。

B

2214 京都では旬の野菜が手に入り、おいしくて安心である。

B

方向 観光は、経済の活性化はもとより、文化力の向上や国際交流の推進、魅力あるまちづくりなどにも大きく貢献するものである。

- 222 このため、京都ならではの観光資源の発掘や創出、幅広い世代のそれぞれのニーズに応じたきめ細かい情報発信、国内外からの観光客やコンベンションの誘致活動の強化、観光客を温かくもてなすしくみづくりを行う。さらに、市民、事業者、社寺・文化施設・大学等を含めたネットワークづくりなどにより、21世紀の京都を牽引する観光を創造する。

評価
B

客観指標評価については、観光消費総額はあまり芳しくないが、他は良好な結果となっている。海外から京都市を訪れた宿泊客数はワールドカップサッカー大会の波及効果等もあり大きく伸びたほか、国内を含めた観光客数は2年連続増加している。市民満足度評価については、概ね良好であり、魅力ある観光都市であると思うか否か尋ねた問いに関して特に良好な回答結果を得られている。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をBとする。

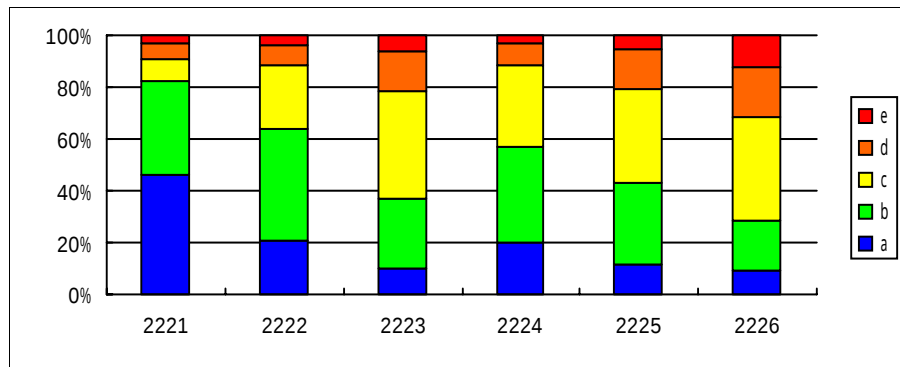
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	21世紀の京都を牽引する観光の創造	評価:
2221 概要	じっくりと奥深い京都の魅力を体感してもらえる宿泊・滞在型、体験型観光の振興や新しい観光資源の創出を図るほか、各地域に埋もれた観光資源を活用した界わい観光を創出するなど、21世紀の京都を牽引する観光を創造する。	B
施策名	観光情報の受発信と観光客誘致の強化	評価:
2222 概要	ITをはじめとした多様な手段により、的確できめ細かい情報の受発信を行う。また、修学旅行や企業のインセンティブツアーの誘致を促進するとともに、他都市等と連携した観光資源のネットワーク化を進める。	A
施策名	海外からの観光客誘致の強化	評価:
2223 概要	海外の地域ごとの観光客のニーズに対応したきめ細かいマーケティングを展開するとともに、英語版ニューズレターやインターネット等の媒体を活用した情報発信を行うことにより、海外からの観光客誘致を強化する。	B
施策名	コンベンション誘致の強化	評価:
2224 概要	コンベンション都市としての京都の広報宣伝活動を強化するとともに、京都ならではの多彩な企画を提案するなど、京都でのコンベンション開催に向けた支援を充実することにより、コンベンション誘致の強化を図る。	B
施策名	観光客を温かくもてなすしくみづくり	評価:
2225 概要	観光客が安全で快適に京都のまちを観光できるよう、案内サービス機能の強化を図り、観光客を温かくもてなすしくみづくりを行う。	B
施策名	京都をあげての観光振興の推進	評価:
2226 概要	市民、事業者、社寺・文化施設・大学等を含めたネットワークを構築することにより、京都をあげての観光振興を推進する。	B

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2221	観光消費総額(億円)	4447	D
2222	京都市観光文化情報システムのアクセス件数(件)	1333553	A
2223	1年間に海外から京都市を訪れた宿泊客数(人)	480828	A
2224	年間国際会議開催件数(件)	207	A
2225	1年間に京都を訪れた観光客数(千人)	42174	A

○ 市民満足度評価



- 2221 京都は新旧織り交ぜた観光資源が充実し、観光客にとって魅力のある都市だと思う。 A
- 2222 観光情報がしっかり発信されているので、ガイド片手にまちを歩いている観光客をよく見かけるようになった。 B
- 2223 京都は外国語での案内が充実しているなど、海外からの観光客にとって訪れやすい都市であると思う。 C
- 2224 京都は国内外の会議が多いと思う。 B
- 2225 思い立って急に京都に来ても、観光案内が十分なので、楽しんでもらえると思う。 C
- 2226 京都市民には、道に迷っている人を見かけたら、声をかけて案内するような温かな人が多いと思う。 C

方向 国公立を合わせて37の大学・短期大学を中核とする高度で豊富な学術研究機能は京都の優れた都市特性であり、人口の約1割に相当する学生や教員、研究者等の多彩な人材、あらゆる分野の「知」の集積は、活力あるまちづくりに欠かせないものである。この個性豊かな大学の集積を維持・発展させるとともに、地域社会との交流や産業界との連携を深め、魅力に満ちた「大学のまち・京都」を推進する。

評価 A 客観指標評価については、非常に良好である。特に公開講座を開講している大学数が増加している。そのことが市民にも実感されていることが市民満足度調査でも明らかになっており、それを含む市民満足度評価は、全体として概ね良好である。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をAとする。

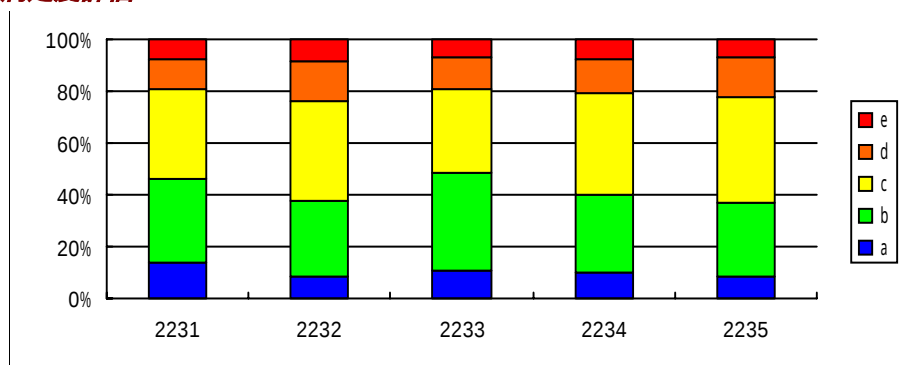
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	個性豊かな大学の集積を生かした交流の場づくり	評価:
2231 概要	「大学のまち・京都」の新たな魅力を創造するため、(財)大学コンソーシアム京都との連携の下、大学のまち交流センター(キャンパスプラザ京都)を核とした交流の充実を図る。	A
施策名	産学公の連携の推進	評価:
2232 概要	京都の地で活躍する起業家や専門家の生きた助言と大学における知的資源を活用し、京都を基盤として活躍する人材を育成する。また、「京都学」や「都市政策」等の研究を産学公が共同で実施するとともに、個々の大学の枠を越えた、ほかにはみられないユニークな研究プロジェクトの形成を促進する。	B
施策名	地域に開かれた大学づくりの促進	評価:
2233 概要	大学と地域との垣根を低くするため、大学施設を可能な限り、市民に開放するなどの地域に開かれた大学づくりを促進する。	A
施策名	大学施設整備への支援	評価:
2234 概要	市内からの大学の流出等を防ぐため、用途地域や高さ制限など、都市計画法等に基づく各種規制を緩和するなど、大学の施設整備に対する都市計画上の支援を行う。	A
施策名	大学・学術研究機関の振興	評価:
2235 概要	市内の各大学及び学術研究機関の整備に対する支援を行う。また、市内にある芸術系大学の連携を強め、将来の芸術文化の担い手となる若手芸術家の育成を支援するとともに、芸術文化の最先端研究などを促進することにより国際的な芸術文化発信の振興を図る。	B

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2231	単位互換提供大学数(校)	45	A
2232	(準)起業家学校等の創業率(%)	21.4	B'
2233	図書館を地域に開放している大学数(校)	23	B
2233	公開講座を開講している大学数(校)	33	A
2234	学生数(人)	138226	A
2235	(準)芸術系大学作品展入場者数(人)	5147	A'

○市民満足度評価



2231 京都は、大学間の交流が盛んで、「大学のまち」としての魅力を感じる。

B

- 2232 大学や研究所の人材・研究成果が産業活動に役立っていると思う。 C
- 2233 大学が市民向け公開講座を開くなど、以前よりも大学を身近に感じるようになった。 B
- 2234 京都の大学は、施設や環境が充実していると思う。 C
- 2235 京都の大学や学術研究機関には活力があると思う。 C

政策 若者が集い能力を発揮する

方向 京都が培ってきた「たくみ」、「こころみ」、「きわめ」などの奥深い文化の魅力をさらに高めることにより、全国、世界から若者が集い、いきいきと学び、働き、くらすことができるまちづくりを進める。

評価 客観指標はいずれも準指標であるが、事業の参加者等は増加しており、評価としては良好である。市民満足度評価については、若者の意見や思いが市政やまちづくりに十分に活かされているか否かの問いに対して「そう思う」「どちらかというと思う」という回答が計7.1%しかないなど、芳しくないものとなっている。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をCとする。

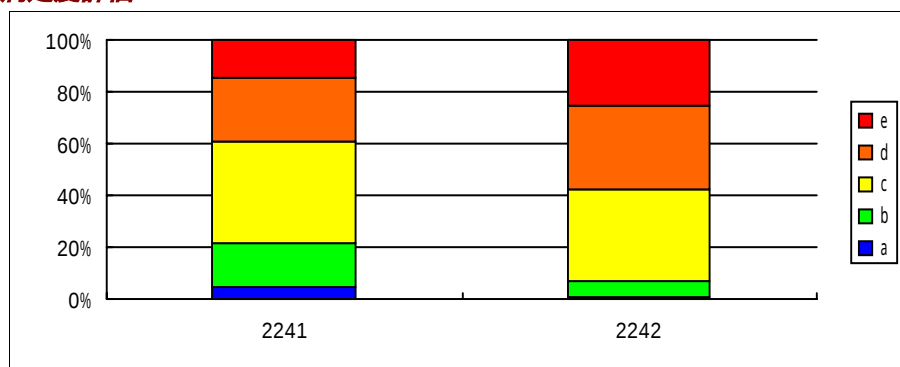
この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	産業や文化など若者の活躍の場づくり	評価:
2241 概要	ベンチャー企業等の発掘や育成により、若者が創造性を発揮し、いきいきと働ける場の創出を促進する。また、芸術文化の新たな担い手を育成するとともに若者が自ら企画・運営できる取組を支援し、新たな若者文化の創造を促進する。	B
施策名	若者の活動拠点の整備と社会参加・自主的活動の支援	評価:
2242 概要	若者の意見を市政やまちづくりに生かす場づくりや若者の関心の深さに応じた魅力ある多彩な事業の展開、青少年施設の再編やネットワーク化の推進等により、若者の社会参加・自主的活動を支援する。	C

主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2241 (準)市立高校インターンシップ参加生徒数(人)	296 B'
2241 (準)大風流の若者による企画運営スタッフ数(人)	60 B'
2242 (準)青少年活動センター事業ボランティア数(人)	500 B'
2242 (準)青少年活動センター利用者数(人)	298887 B'

市民満足度評価



2241 ベンチャー企業支援や若者企画のイベントがあって、若者が一旗あげられる機会が多いと思う。 C

2242 若者の意見や思いが市政やまちづくりに十分に活かされていると思う。 D

方向 まちづくりの方向を「保全・再生・創造」の3つの大きな概念で捉え、各種の都市計画制度を活用しながら、市民が快適に安心して生活でき、かつ、多彩で個性的な機能をもつ魅力あるまちをつくる。

231 魅力あるまちをつくる。

そのため、広く市民と情報を共有し、京都独自のきめ細かなまちづくりのしくみを整えながら、それぞれの地域において、市民との協働により、地域に根ざしたまちづくりを進める。永い歴史のなかで受け継いできた自然・歴史的資源に恵まれた地域においては、その個性を保全・再生し、新たな都市の活力を担う市南部においては、積極的に都市機能を充実し、都市全体の魅力と活力を高める。

評価
C

客観指標評価については、まちづくりが進む地区で路線価・乗降客数が順調に伸びているなど、良好である。市民満足度評価については、いずれもCという結果であり、まちづくりに関する実感が必ずしも得られていないと考えられる。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をCとする。

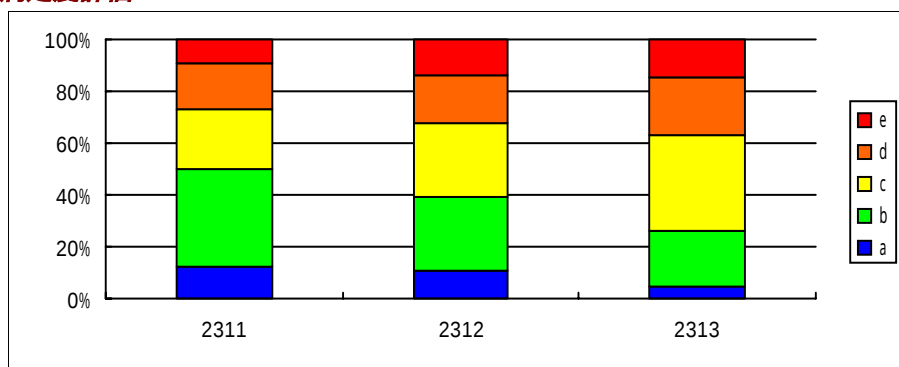
この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	保全・再生・創造を基調とするまちづくり	評価:
2311 概要	永い歴史のなかで受け継いできた自然・歴史的資源に恵まれた地域においては、その個性を保全・再生し、新たな都市の活力を担う市南部においては、積極的に都市機能を充実し、都市全体の魅力と活力を高めるまちづくりを進める。	C
施策名	多彩で個性的な機能をもつ地域のまちづくり	評価:
2312 概要	鉄道駅周辺の交通の利便性が高い地域においては、周辺住環境との調和に配慮した都市機能の配置と市街地環境の整備を行い、民間活力を活用しながら、にぎわいと潤いのあるまちづくりを進める。また、地域特性に応じた商店街の活性化を図り、商業振興と一体となったまちづくりを進める。	C
施策名	まちづくりを支えるしくみづくり	評価:
2313 概要	広く市民と情報を共有し、京都独自のきめ細かなまちづくりのしくみを整えながら、それぞれの地域において、市民との協働により、地域に根ざしたまちづくりを進める。	B

主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2311 (準)京都市景観・まちづくりセンターにおけるまちづくりに関する相談件数(	571	A'
2312 路線価(二条駅地区)(千円)	236	B
2312 地下鉄駅別乗降客数(二条駅)(千人)*	6112	B
2313 地区計画の地区数(地区)	36	B
2313 地域協働型地区計画の策定数(計画)	1	A

市民満足度評価



2311 美しい自然や町並みが保たれている一方、南部地域には企業が集積し、多様なまちづくりが進んでいると思う。 C

2312 駅周辺や商店街が整備され、便利で賑わっていると思う。 C

2313 住民自身の手によるまちづくり活動が盛んになってきていると思う。 C

方向 ひとやものの円滑な流れを支える、安全・快適で環境に負担の少ない総合的な交通体系を構築し、市民生活の向上、都市活動の活性化を促す。

232 このため、公共交通の優先を基本にした、だれもが歩きたくなる「歩くまち・京都」の考え方を踏まえ、交通需要管理施策（TDM施策）をはじめとして、社会経済動向の変化に応じた新たな交通政策の検討などに取り組みながら、地下鉄や道路等の整備を進める。

評価
C

客観指標評価については指標によりばらつきがある。道路規格改良済の延長の伸びが低いものの、公共交通の利用割合は増加している。市民満足度評価も施策により分かれている。他都市とのアクセスなど広域交通については比較的良好な評価であるが、市内道路の歩きやすさや新しい交通政策の展開については芳しい評価ではない。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をCとする。

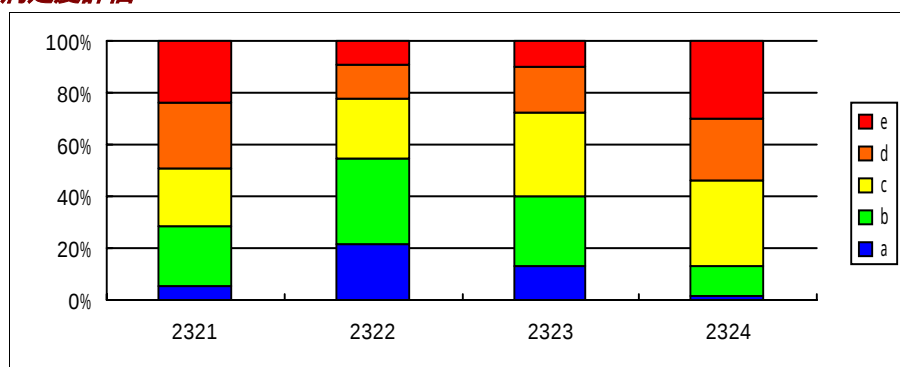
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	都市内の交通網の整備	評価:
2321 概要	「歩くまち・京都」の考え方を踏まえ、安全・快適な歩行空間を確保するとともに、公共交通機関や自転車の利用しやすい条件を整備し、自動車交通に過度に依存しない公共交通優先型の歩くまちをめざした交通網を整備する。	C
施策名	都市圏内の交流を支える交通網の充実	評価:
2322 概要	都市圏内の交流を支える、地下鉄をはじめとする鉄道網、道路網の充実により、都市間交流の円滑化、市民生活の向上とまちの活性化を図る。	C
施策名	広域交通網の充実	評価:
2323 概要	市全体のまちづくりのあり方を念頭に置きながら、都市圏内外を結ぶ自動車専用道路網を形成するとともに、広域高速道路網、広域高速鉄道網構想へ対応し、都市活動の活性化を図る。	C
施策名	新しい交通政策の確立	評価:
2324 概要	地域の住民や事業者、その他の関係機関が一体となって、自動車交通の抑制や平準化を図る。また、必要に応じて実験的な取組を実施しながら、安全・快適で効率の良い、人や環境にやさしい交通体系の実現を目指す。	C

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2321	都市型レンタサイクルの設置台数(台)	610	B
2321	道路規格改良済延長(単年度延長)(m)*	6781	D
2323	広域交通網の充実(油小路線)(百万円)	25607	D
2323	広域交通網の充実(新十条通)(百万円)	56124	B
2324	(準)パーク＆ライド交通社会実験の利用者満足度(%)	95.4	A'
2324	(準)公共交通の利用割合の増加度(%)	86.5	B'

○市民満足度評価



2321 市内の道路は、歩いたり自転車に乗るのに快適になってきた。 D

2322 鉄道網や道路網が発達しており、近隣の都市へ出かけるにも便利だと思う。 B

2323 交通網が充実し、外国や国内各地からアクセスしやすいまちだと思う。 C

2324 パークアンドライド実験など新しい交通政策は十分に展開されていると思う。

D

方向 世界的規模で急速に進展し続ける情報通信技術(IT)革命は、経済をはじめ社会の構造を根底から変革している。このような背景の下、高度情報通信社会への円滑な移行を促進するとともに、その経済的、社会的、文化的な利益を、市民、団体、企業があまねく享受できるしくみづくりに取り組む。

評価
B 情報化の急速な進展を反映し、市民満足度評価は概ね良好である。また、客観指標評価についても、申請書をダウンロードサービスしている課等の割合を除きいずれの指標も大きく伸びており、非常に良好である。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をBとする。

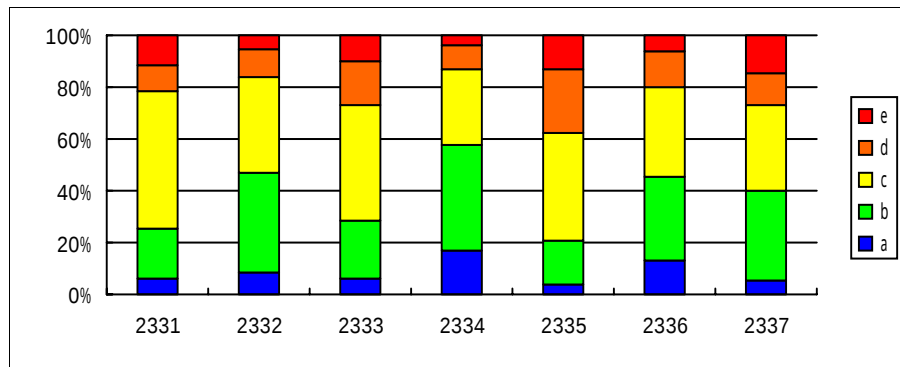
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	高度情報通信社会に対応するための基盤整備	評価:
2331 概要	民間活力による高度な情報通信基盤の構築を促進し、市民、企業等がその利益を享受できるしくみをつくり、地域の更なる活性化を目指した高度情報化の進展に取り組む。	B
施策名	デジタルアーカイブの推進	評価:
2332 概要	文化・学術・産業などにおいて「財」としての価値を持つ京都の豊富な資産をデジタル化して蓄積・発信・活用し、産学公の緊密な連携の下、京都文化の発展、産業経済の振興を目指す。	B
施策名	情報基盤を活用した企業活動の支援	評価:
2333 概要	情報関連企業の育成支援を図るとともに、情報通信技術の活用による企業連携の支援など、情報通信基盤を活用し、企業活動を支援する。	C
施策名	観光における高度情報化の推進	評価:
2334 概要	ITの活用により、運輸機関、旅行業界等との連携の下、的確できめ細かい観光情報の受発信を行い、観光客のニーズの把握と誘致活動を展開する。	A
施策名	高齢者や障害のあるひとへの高度情報化による支援	評価:
2335 概要	情報通信技術を活用し、高齢者や障害のあるひとが多くのかひとと交流し、社会参加できるよう、情報機器の基礎技術の習得をはじめとした支援を行う。	C
施策名	情報教育の充実	評価:
2336 概要	子どもたちがコンピュータを扱うことができ、ネットワーク上での必要な情報を選択・収集し、さらには自らのものとして読み解くことができる情報活用能力を養う教育を進める。	B
施策名	行政の高度情報化の推進	評価:
2337 概要	行政サービス、行政活動において高度情報化を推進し、市民が知りたい情報をより早く、簡単に入手でき、市民の意見・提案等が的確に伝わるしくみ、また、各種申請が窓口に行かなくても行えるしくみを構築するなど、より利便性の高い行政サービスが展開できる「電子自治体」の確立を目指す。	C

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

2332 (準)京都デジタルアーカイブ研究センターHPアクセス数(件)	19009	A'
2332 デジタルアーカイブ蓄積意匠数	3271	A
2334 京都市観光文化情報システムのアクセス件数(件)	1333553	A
2336 (準)教員PC指導可能率(%)	76.2	A'
2337 (準)インターネット京都市民しんぶん配信登録者数(件)	2670	A'
2337 申請書をダウンロードサービスしている課等の割合(%)	7.45	E

○ 市民満足度評価



2331 京都市内は、インターネットをはじめとしたIT技術を利用するのに便利なところだと思う。 C

2332 美術品や歴史的資料をインターネットで手軽に見られて楽しめる。 B

2333 中小企業のIT化は進んでいて、経営に役立っていると思う。 C

2334 市内の観光情報を集めるときは、インターネットを利用するので、便利になった。 B

2335 高齢者や障害のあるひとにもITを活用できる環境が整っていて、社会参加に役立っていると思う。 C

2336 最近の子どもはパソコンを十分使いこなしていると思う。 B

2337 市役所や区役所のIT化が進み、公共サービスが便利になったと思う。 C

方向 市民との厚い信頼関係構築のための前提として、市政情報の積極的な提供や公開を進めるとともに、市民との対話を通じ市民の意見・提案やニーズを的確に把握し、市政にかかわる情報を市民と共有する。

評価 C 客観指標評価は、1件あたりのパブリックコメント数が大きく伸びるなど、良好である。一方、市民満足度評価については、施策により分かれている。市民広報の分かり易さが高い評価を得ているが、双方向性の確保や情報の共有についての評価が低い。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をCとする。

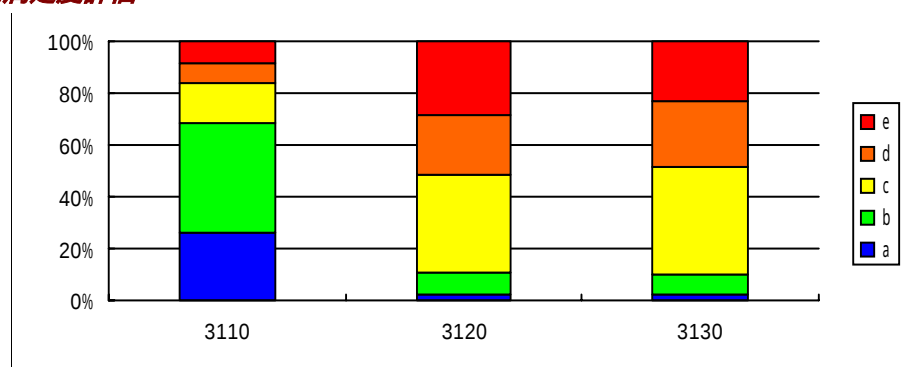
この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	市民の目線での市政情報の提供や公開	評価:
3110 概要	「市民しんぶん」をはじめとする印刷物やテレビ、ラジオ、インターネットなど、様々な媒体を利用し、市民に公平・迅速に市政に関する情報を伝える。また、情報公開制度を改善し、公正で透明度の高い開かれた市政を推進する。	B
施策名	市民との対話による双方向性の確保	評価:
3120 概要	「市長への手紙」や「電子会議室」をはじめとして、市民が気軽に意見や提案を言える仕組みを充実するなど、双方向、対話型の新たな仕組みを構築する。	C
施策名	市民とともに政策を企画・実施・評価していくための情報の共有	評価:
3130 概要	市民が知りたい情報を早く、簡単に入手できる仕組みを作るとともに、市民の意見や提案等が市政の各部門に確実に伝わるしくみを構築し、市民が市政に参加していくための基本となる情報の共有化に努める。	C

主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

3110 インターネット京都市民しんぶん配信登録者数(件)	2670	A
3110 市ホームページアクセス件数(件)	25567809	A
3120 (準)市民の声の件数(件)	187856	D'
3120 パブリック・コメントで出された意見数(件)	195	A
3120 (準)「市長への手紙」の数(件)	1733	A'

市民満足度評価



- 3110 市民しんぶんやその他の市政広報は市政に関する情報を得るのに分かりやすく、役に立っていると思う。 B
- 3120 市政に関して意見を言いたいときに気軽に言える場があり、意見に対しても十分な応答がなされている。 D
- 3130 市政に参加したいと思ったときに、必要な情報を得やすいと思う。 D

方向 市民の多様なニーズに的確に対応した質の高い行政サービスの効率的な提供を図っていくため、代表民主制度を補完する、さまざまな段階での広範な市民参加の下に、多彩な市民の知恵や創造性を生かした政策形成を行う。

評価 C 客観指標評価については良好である。特にパブリックコメントにおける市民からの意見数、審議会等の委員公募件数が前年度に比べ大幅に増加している。しかし、取り組みが緒についたところであり認知度が低いいためか、市民満足度評価はいずれも芳しくない。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をCとする。

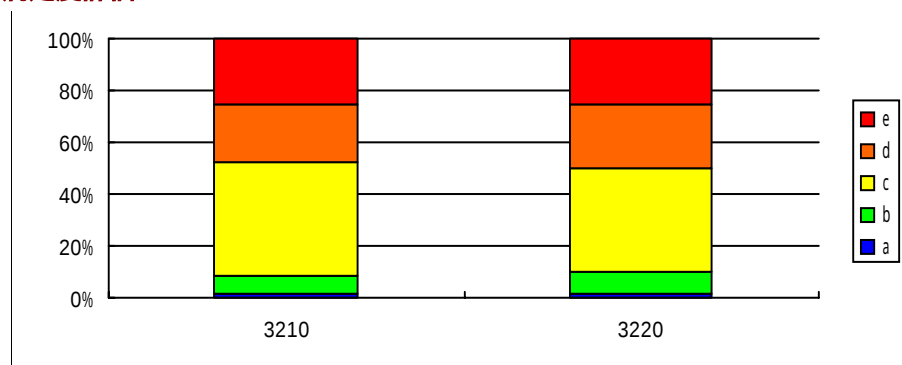
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	市民が政策形成に参画できるしくみづくり	評価:
3210 概要	市民による政策の企画立案に対して支援を行うとともに、審議会の公開やワークショップ、パブリック・コメントなど様々な機会を提供することにより、多くの市民や専門的な活動を行う市民活動団体等が政策形成に参画できる仕組みづくりに努める。	C
施策名	個性ある政策を形成するための条件整備	評価:
3220 概要	将来ニーズを的確に把握し、幅広い角度から先駆的で大胆な個性ある政策の企画ができるよう、職員の政策形成能力の向上を図るとともに、財政力の強化に努める。	C

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

3210	ワークショップ等市民参加型事業の実施局・区の数(局区)	12	C
3210	パブリック・コメントで出された意見数(件)	195	A
3210	(準)審議会等の委員公募件数(件)	11	A'
3210	(準)公開されている審議会等の数	31	C'
3220	政策形成能力の向上に係る研修の受講者数(人)	116	B

○市民満足度評価



3210 市の計画に早い段階で意見を言う機会が増えてきており、市民ニーズが反映されていると思う。 D

3220 市民ニーズに沿って工夫された政策が打ち出されていると思う。 D

方向 環境、高齢者介護、子育て支援、防災、まちづくりなど広範な領域における市民の自発的活動への支援等を行い、市民との適切な役割分担を図りつつ、協働して政策を実施する。

評価 C 客観指標評価は良好である。特にNPO法人の登録件数の伸びは過去最大である。市民満足度評価はいずれもCという評価である。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をCとする。

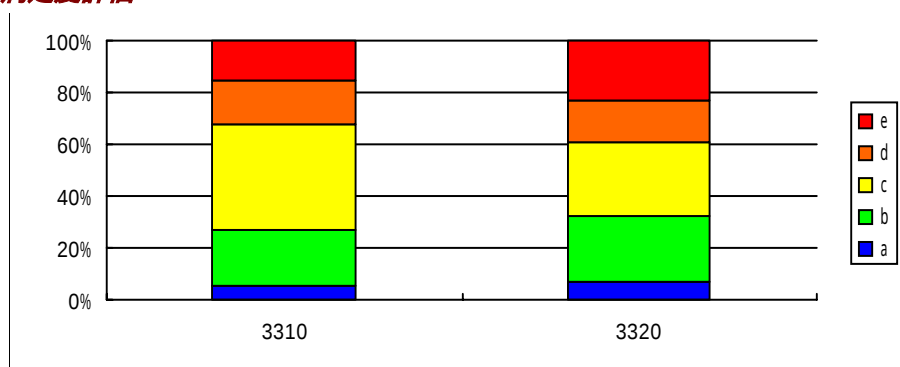
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	市民との協働による政策の推進	評価:
3310 概要	地域の課題や様々なテーマに関わる問題の解決に向けて、市民や団体等の自主的な活動を支援し、適切な役割分担を図りつつ協働して政策を実施する。	C
施策名	新たな発想・手法を取り入れた行政運営の推進	評価:
3320 概要	社会経済情勢の変化や多様化、高度化する市民ニーズに的確・迅速に対応するため、行政運営の改革等に当たって、新たな発想・手法を取り入れ、その取組を進める。	C

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

3310 (準)市内の特定非営利活動法人(NPO法人)の登録件数(件)	216 A'
3320 市政改革大綱に基づく事務事業の見直し等の具体的取組の達成状況(%)	62 C
3320 市民対応窓口サービス評価制度における市民満足度(5点満点)	3.91 B
3320 (準)組織改革基本方針(案)の取組状況(項目)	6 B'

○市民満足度評価



- 3310 多様な事業やイベントなどにおいて、市民や行政が力を合わせて取り組む機会が多くなり、満足である。 C
- 3320 役所の仕事ぶりが以前よりも良くなったように思う。 C

方向 行政活動の基礎的な単位となる個々の具体的「事務事業」だけでなく、これらの「事務事業」を包括した基本的方針を示す「政策」そのものについても、市民とともに評価を行うことのできるしくみを整え、評価から得られた成果を「政策」や「事務事業」の見直しと新たな形成につなげる。

評価 D 客観指標については概ね良好である。しかしながら、事務事業評価は15年度から、政策評価は16年度から本格的に実施するものであるため、市民の満足度はいずれも芳しくない。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をDとする。

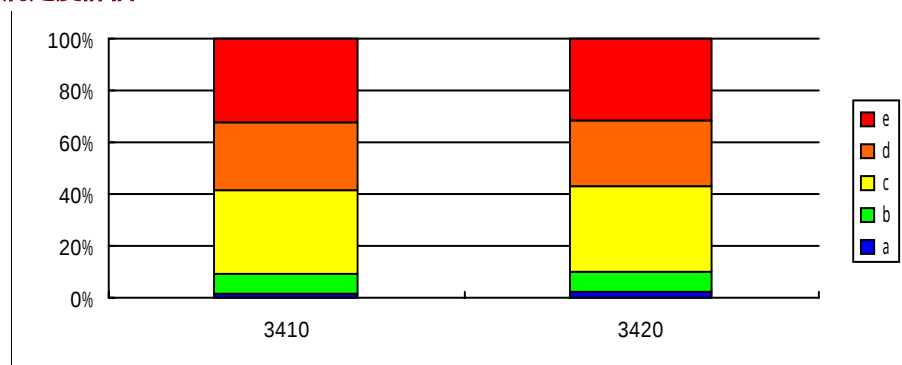
○この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	市民とともに行う評価のしくみづくり	評価:
3410 概要	「政策」や「事務事業」の状況、本市の財政状況等を分かりやすく市民に伝える方法を工夫し、時代状況に応じて充実することにより、市民とともに評価を行えるしくみをつくる。	D
施策名	公共事業の再評価	評価:
3420 概要	公共事業の効率化・重点化と実施過程の透明化を図るため、事業着手後一定期間を経過したものを中心に、第三者機関による再評価を行い、必要な見直しを行う。	C

○主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

3410	行政評価制度に寄せられた意見数(件)	-
3410	市民満足度調査の回答率(%)	-
3420	再評価を行った総事業数のうち、完了した総事業数の割合(%)	13 B

○市民満足度評価



3410 市民が市の仕事を評価する機会が十分にあると思う。 E

3420 公共事業の再評価によって事業の点検がしっかりできていると思う。 D

政策 個性を生かした魅力ある地域づくりを進める

方向 地方分権の大きな流れのなか、福祉や防災、環境など市民に身近な地域の問題は、できる限り地域の独自性を生かしつつ意思決定を行うことが必要である。

351 このため、「各区基本計画」の策定過程で得たさまざまなノウハウやネットワークなどを生かし、各区の個性を生かした魅力ある地域づくりの拠点としての区役所機能の強化を図り、きめ細かな行政サービスの提供に努める。

また、市民に親しまれる総合行政機関としての役割を強化するため、区役所の総合庁舎化を進めるとともに、新市庁舎の整備に向けた取組を進める。

評価 客観指標評価については概ね良好である。市民満足度評価は、市役所庁舎に関する問いについてのみやや低い評価である。これらの客観指標評価と市民満足度評価とを総合的に勘案し、総合評価をCとする。

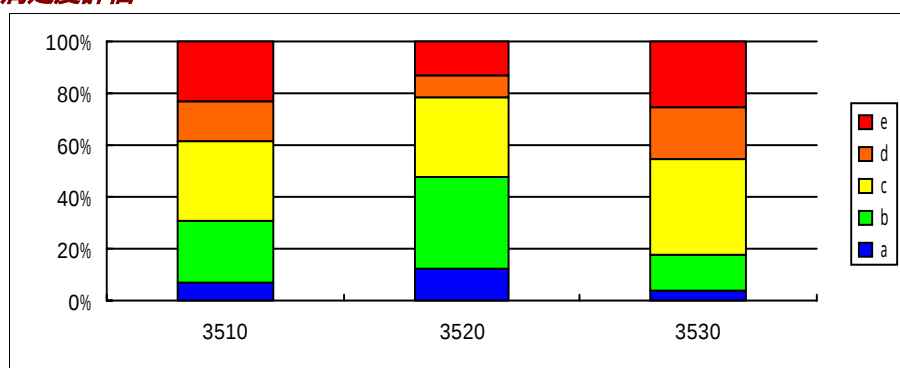
この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	魅力ある地域づくりの拠点としての区役所機能の強化	評価:
3510 概要	情報受発信機能の強化や市政各部門との連帯の強化など、地域における市民参加を得ながら個性的で魅力ある地域づくりを進めるための区役所機能の強化を図る。	C
施策名	区役所の総合庁舎化	評価:
3520 概要	保健、福祉などの市民生活に密着した要望や地域課題の解決に向けて、それぞれの地域のニーズや実情を踏まえ、総合的に市民サービスの向上を図るため、市民に最も身近な総合行政機関である区役所の総合庁舎化を進める。	B
施策名	新市庁舎の整備	評価:
3530 概要	21世紀の市政を担う中核施設であり、市政の総合的な情報センター機能や災害時の総合指令センター機能を有し、市民に親しまれる新市庁舎について、財政状況を勘案しながら整備に向けた取組を進める。	D

主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

3520 総合庁舎化の進捗状況(箇所) 8 B

市民満足度評価



3510 身近な暮らしの相談ができるなど、区役所は頼りになる。 C

3520 区役所に行けば、日常生活のたいいの手続きができて便利だ。 C

3530 市役所の庁舎は市民が気軽に利用できる場となっていると思う。 D